

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立南小倉小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	第5学年60名（2クラス＋特別支援学級1クラス）
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ 学習発表会 ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<p>○ 体験を通して、車椅子などを使って生活する上で困っていることや工夫を知り、障害をもった方たちと共生する社会について考える。</p> <p>○ パラリンピアンのお話を聞いたりパラスポーツの体験をしたりすることを通して、ルールや用具を工夫することで誰もが同じスタートラインに立ち、みんなで競技を楽しむことのできることに気づき、多様性を認め合い共に気持ちよく生きるために必要なことについて考え、実践していこうとする心情を養う。</p>
5 取組内容	<p>◎「スポーツ庁から送付される『I'm possible』を活用して、パラリンピックについての学習を行う。」</p> <p><第1時>「パラリンピックって何だろう」</p> <p>○ パラスポーツで使われる道具のクイズを通して、選手たちの「できない」を「できる」に変える工夫を考えたり、パラリンピックの歴史や移り変わりを学習したりする。</p> <p><第2時>「パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう」</p> <p>○ 香西選手の生い立ちを通して、パラリンピックの価値「勇気」「強い意志」について学ぶ。</p> <p><第3時>「公平について考えよう」</p> <p>○「事例を通して、障害の有無にかかわらず一緒にスポーツを楽しむことができるように、どのような工夫ができるかを考える。</p> <p><第4時>「パラリンピックについての学習を振り返ろう」</p> <p>○ パラリンピックの学習を通して考えたことを整理し、パラリンピックの意義や社会に与える影響について考える。</p>

<第5・6時>「パラリンピアンとの交流の準備をしよう」

○ パラリンピアンとの交流があることを伝え、校内にどのような困難があるかを探し出したり、見つけた問題点の解決策を考えたりする。

- ・ 「高齢者・障害者疑似体験セット」を用意する。
(北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターから借用)
- ・ 全体で高齢者や体が不自由な人にはどのような困難があるのか考える。
- ・ 各グループで視覚障害ゴーグルやイヤーマフ、おもりなどを使って疑似体験をする。
- ・ 体が不自由であることの大変さを実感するとともに、道具があたり介助者がいたりすると体が不自由でも安全で快適に日常を送ることができることを話し合う。

<第7時>「車いすバスケットボールを体験しよう」

○ 車いすの操作や車いすに乗った状態でのシュートなどの体験を行う。

- ・ 体験後に全体で感想を交流し、前に進むだけでも大変なことや腕の力がとてもいることなどを話し合う。

<第8・9時>「パラリンピアン(車いすバスケットボール)と交流しよう」

- 車いすバスケットボールのドイツ代表チームと交流する。
(北九州市生涯スポーツセンター「アレアス」を通して依頼)
- ・ 交流会に向けて、横断幕を作成したり、ドイツの国歌の練習に取り組んだりする。
 - ・ 車いすバスケットボールの試合を見学するとともに、インタビューやフリースロー対決、5対5の試合を行う。



<第10・11時>「パラリンピアン(アーチェリー)と交流しよう」


○ パラリンピック・アーチェリー日本代表の重定知佳さんとの交流会を実施する。

- (北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」を通しての紹介)
- ・ アーチェリーの道具やメダルに触れたり、重定さんの生い立ちやパラリンピック競技の楽しさなどについて話を聞いたりする。
 - ・ 重定さんへのお礼状を作成し、送付する。

<第12・13時>「パラリンピアン(ボッチャ)と交流しよう」

○ ボッチャ選手の木谷隆行選手との交流会を実施する。

- (北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」を通しての紹介)
- ・ ボッチャの紹介や木谷さんの生い立ちについて話を聞いたり、木谷さんとボッチャの試合をしたりする。
 - ・ 木谷さんへのお礼状を作成し、送付する。

	 <p>＜第14～24時＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだことを学習発表会で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・体の不自由な方の生活とそれを支える道具 ・体の不自由な人とともに生活するためにできること ・「パラリンピック」の「見どころ」「ルール」「選手」「工夫」
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「高齢者・障害者疑似体験セット」を使用した活動を通して体の不自由な方の思いを知ることができ、支援を行なうことの大切さに気付いた記述や発表が見られた。 ○ 様々なパラリンピアンとの交流を行う中で、ルールや道具を整えることで障害のある人も変わらずに取り組むことができることに気づくことができた。 また、力強くプレーをする選手を間近で見ることで、そのすごさを感じるとともに、自分も負けずに頑張りたいという思いをもつことができた。 ○ 継続してパラリンピックに関する取り組みを行う中で、児童のパラリンピックへの興味も高まってきた。実施していく中で「来年が楽しみ」「テレビで応援したい」という声が聞こえるようになった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州市生涯スポーツセンターを通して、多くのパラリンピアンを紹介してもらったり、道具の貸し出しをしていただいたりした。 ○ ボッチャの道具や疑似体験セットなど、様々な道具を活用し、児童が体験をとおして学べるようにした。 ○ 学習発表会という行事に絡め、学んだことを発表する場を設定したことで、意欲をもって交流会に取り組むことができ、また、学んだことをさらに深めることができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流会に来て下さるパラリンピアンとの打ち合わせがぎりぎりになり、日程調整が難しかった。 ○ 児童全員が活動できる用具（車いすなど）をそろえることが難しかった。貸し出しをしてくれる施設を早めに見つけておく必要がある。 ○ 他の学校行事との兼ね合いがあり、体育館の使用割りや交流会の準備が大変なところもあった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5学年における総合的な学習の時間に「障害者理解」を位置づけ、地域にある「北九州市生涯スポーツセンター」「リハビリテーション病院」等と連携しながら、学習を進めていく。 ○ 地域でパラリンピックスポーツに携わる方々との交流しながら、「パラリンピック」や「パラリンピックの競技者」また、「障害者」に対する理解を深めていく。